

国分寺崖線 遠景



神代中学校へ続く登り坂。
国分寺崖線の連なりを
切り通して道路になっている。



こんもりとした緑の向こうは晃華学園。
右手に位置する神代中学校まで
連続した緑が続いている。



鳥居をくぐると、長い階段が続き、
その先には柴崎稲荷神社の本堂が建てられており、
ハケ地を利用したつくりになっている。



ハケ地が入間公園。
溪谷の入り込んだ場所を意味する、
入間という地名の由来通りの場所。

調布市内の河川

調布市内には、国分寺崖線を作り出した多摩川のほか、野川・入間川・仙川が流れています。

多摩川

東京都と神奈川県を隔てる河川です。かつては「暴れ川」とも呼ばれ、急勾配で強い流れに台地が削り取られることで、国分寺崖線が作り出されました。

野川

国分寺市の日立製作所中央研究所内を源流とし、国分寺崖線に沿うように流れています。崖線から湧き出た湧水や入間川、仙川が集まり、多摩川に流れ込んでいます。



入間川

深大寺東町から入間町を流れ、狛江市との市境で野川に合流します。

仙川

小金井市を源流とし、緑ヶ丘と仙川町の境を流れ、世田谷区内で野川に合流します。

用水路

昭和30年頃まで多くあった田畑へ、野川・入間川・仙川から水を引くため、用水路が整備されました。近年、役目を終えた用水路はふたがかけられ、街中から見えなくなっています。

調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel：042-481-7746 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp



ちようふ
景だより
観り

平成30年7月27日発行

第43号

本号のもくじ

- 〔第7回市民検討会〕
国分寺崖線の模型を作りました！
- 国分寺崖線 遠景
- 調布市内の河川

国分寺崖線の模型を作りました！

第7回市民検討会「国分寺崖線を知ろう！②」では、景観アドバイザーの石川先生（慶應義塾大学大学院教授／市内在住）、慶應義塾大学石川研究室の皆さんと一緒に国分寺崖線の模型を作製し、崖線の地形を学びました。

グループワークでは、切り出した模型の部材を重ねて組み立ててから、駅、公園といったポイントをふせんで目立たせ、道路や線路をテープで引くことで、市内の地形のつながりを確認しました。

組み立て



ポイントを書き込み



合体して完成！



野川公園

野川公園は、もともと国際基督教大学（ICU）のゴルフ場だったため、奥深い芝生と設備が残っている。ゴルフ場は、スコットランドの自然風景を表現するというデザインコンセプトで作られるため、自然式庭園として優れている。

地形

深大寺の北側に国分寺崖線、立川段丘、多摩川といった調布を特徴づける大きな地形の動きが表れている。

調布飛行場

調布飛行場の周辺は、もともとあった村の田畑などの土地の利権のため、入り組んでいる。

その後、調布飛行場が市境を越えて整備されたため、飛行場としての土地利用と市境が異なっている。

旧甲州街道沿いの土地利用

旧甲州街道沿いは、江戸時代の税の関係から間口が狭く、短冊状に農地が整備され、そのまま宅地化された様子が、今の土地の形状から見てとれる。

中央自動車道

甲州街道などと異なり、崖線を直線状に通過している。

土木技術の発展に伴い、切り通しや高架を利用して崖線とインフラが対決している様子がわかる。

野川

野川公園や深大寺、仙川周辺など、さまざまなところから湧水が流れ込み、国分寺崖線の崖下を二子玉川まで流れている。

崖線上の緑地

崖線上に大きな緑のある土地が連続していることがわかる。
(国際基督教大学、深大寺、NTT中央研修センター、成城、砧緑地など)

甲州街道

江戸時代に整備された甲州街道は、徒歩や馬で通るため、崖地を極力避けて道が形成されている。(崖地は坂道で対応)

つつじヶ丘周辺

国分寺崖線の傾斜が緩やかで、工場や住宅、マンションが建ち並び、緑が途切れている。

B グループ

C グループ